

# 彼方【かなた】

校長通信  
H29.4.3  
Vol.1

## 【着任の挨拶】

今年度より我孫子市立白山中学校、校長として着任しました田中聡です。昨年度まで千葉県教育庁東葛飾教育事務所指導室長として、「すべては東葛飾の子供たちのために」を合言葉に、管内6市の教育委員会及び各学校現場の指導・支援に取り組んで参りました。今度は「すべては白山中の生徒のために」を胸に尽力していきたいと思えます。よろしくお願ひします。

白山中学校は、校内研等の訪問で何度か来たことがあります。生徒が真剣に授業に取り組む様子を観させていただきました。部活動も盛んでいろいろなところで白山中の名前を耳にすることができました。まさに文武両道で市内をリードする学校だという印象が私の中にはあります。また、保護者の皆さんだけでなく、地域の皆さんからの期待も高く、とても教育熱心な「地域の学校」という思いもあります。このような素晴らしい学校に校長として着任できたことは、大変嬉しく、光栄に思っています。と同時に、多くの方々の学校への期待に身の引き締まる思いでもあります。精一杯学校経営に取り組み、本校生徒の未来を切り拓くために尽力してまいりたいと思えます。

本校には、「忍と耐」という標語があるのを知りました。「忍耐」ではなく「忍」と「耐」と分けているところが深いと思えました。いわゆる「忍耐」とは

「じつと我慢すること・たえしのぶこと」という意味ですが、二つに分けた時の「忍」は、「耐えること・許すこと・しなやかなこと」などの意味を持ち、「耐」は、「外からの変化に対してもちこたえる・我慢しおせる」などの意味が書かれていました。私が惹かれたのは、「忍」の「許すこと・しなやかなこと」という意味です。なぜなら「耐え忍ぶ」というのは、できない理由を自分以外に向け、自ら動くことはせず、じつと我慢しながら耐えるという受動的なイメージを持っていました。でも二つに分けた時の一字一文字は、目の前の問題から逃げずにしっかりと向き合い、逆風にも負けずに仲間と協働しながらその解決に向けて一歩でも二歩でも前に進もうとする能動的なイメージを感じます。

Reduce:リデュース(減らす) & Reuse:リユース(繰り返し使う)に伴うスパイラルで持続可能な成熟社会に変わった今、社会が求める人材も、言われたことをやり抜くバイタリティ溢れるマニュアル型の人材から、答えのない問いに対しても主体的に判断し、周囲と協働しながら最善の行動がとれる自力解決型の人材に変わってきました。想定外のことでも「しなやか」に対応し、答えを引き出さなければ変化の波に飲み込まれてしまいます。

本校の標語になっている「忍と耐」は、生徒に「しなやか」に持ちこたえる「耐心」の強さを身に付けた人材に育ってほしいという願いが込められているように感じます。そして学校教育目標「みがき合い、支え合い、心豊かでたくましく生きる生徒を育成する」にも同様の願いが込められています。また、校

歌の中にある「純平志操」(全く混じりけがなく、揺らぐことのない「志」)が持つ意味にもつながっているとあります。多摩大学の田坂広志教授は、「未来を拓く君たちへ」なぜ我々は「志」を抱いて生きるのか」という著書の中で、「志」を「与えられた人生において、己のためだけでなく多くの人々のために、そして世の中のために、大切な何かを成し遂げようとする決意」と定義しています。人は一人では生きられません。人とつながり、自然の中で生かされています。どの人も、誰かのために、所属する集団のために、自ら果たすべき役割を持っています。家族まで人が所属する集団は様々です。その中で、人となりがり、助け合い、問題を解決し、現状を改善するために一歩踏み出すことが、よりよく自分の役割を果たすことにつながるのです。それは、教育の目的である「人格の完成と社会性の育成」(人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成)を追求していくことにも通じます。

白山中学校の存在意義は、学校教育目標や標語、校歌の歌詞の中に塗り込められています。校長として本校に着任し、その役目を果たすということは、弛まぬ学校改善に取り組み、生徒一人一人が自己実現できるように支援していくことだと思っています。本校職員が一丸となって、保護者の皆さんや地域の皆さんと共に全力で支援していきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。